

まちなかで砂の祭典 鳳凰高生たちの



挑 戦

コロナ禍でのイベント運営のあり方を模索しながら、実施した今年の砂の祭典。その中でも、普通科を中心とする26名の鳳凰高校の生徒の皆さんが高校生スタッフとして、砂の祭典に向け取り組んでくれました。今回は、そんな活動の一部をご紹介します。

① 3つのエリアを楽しく歩いてもらう

来場者に「南さつま市のまちを知ってほしい」「各エリアの砂像を見てほしい」という願いを達成するために、スタンプラリーのイラスト作成や、謎解きイベントの企画・制作に関わってもらいました。オンラインでのミーティングを実施するなど、感染症対策を意識しながら準備を進め、当日は、多くの来場者に市役所・本町・麓の各エリアをくまなく巡っていただくことができました。



市役所エリアで謎解きに挑戦する親子

② 加世田麓（日本遺産）の歴史を伝える

薩摩藩の外城（とじょう）として栄え、100年以上前の郷士の民家が今でも残る加世田麓の歴史を、小学生にもわかりやすく伝えたい！という思いから、いにしへガイドの皆様のお話の内容を一つの資料にまとめてくれました。事前の準備では、実際に加世田麓のまちをガイドさんとめぐって、学びを深めました。完成した資料は、砂の祭典当日に武家屋敷の一つである「旧鯉坂邸」にて配布しました。



事前に麓エリアを調査する様子

③ 麓の武家屋敷の利活用を考える

加世田麓にある「鯉島邸」を活用する取り組みとして、南薩地区を拠点に活動している最中 /sanakaさんとコラボした着物リメイク展示を企画しました。着物を仕立て直してつくられた衣服のほかに、「古いものと新しいもの」をテーマとして高校生が書いた詩やエッセイなど3点も展示。武家屋敷の雰囲気を十分に生かし、来場者の興味をかき立ててくれました。



エッセイ（右の額縁）と衣服（左）の展示

砂の祭典を
終えて...

「コロナ禍の暗い世の中にも関わらず、砂の祭典に関わるすべての人が来場者を楽しませよう、そして自分たちでも楽しもう！としている雰囲気に温かい気持ちになった。」「減りに歩くことがなく、今までほとんど知らなかった地域の魅力に気づいたので良い経験になった。3エリアともまったく違う雰囲気があって、南さつま市は面白い町だと思った。」など、高校生の皆さんの前向きな感想を聞くことができました。加えて、「これからも大人と一緒に砂の祭典をサポートしてみたい！」「来場者としてではなく、来年度は運営者の一人としてもっと密接に関わってみたい！」という来年度への熱い思いも多数寄せられて、頼もしさを感じました。

砂の祭典を今後より一層良いものへと変化させていくためにも、学校と地域住民、行政等が一体となって、今回のような学び・実践の場を積極的につくっていくことが重要であると感じます。「自分のまちは自分たちでもっと盛り上げることができる」という思いを子どもたちに持ってもらえるような取り組みを今後も継続していきたいと思います。

砂の祭典
市民アンケート

111名様に

- ・黒毛和牛ステーキ
 - ・お買い物券 等
- が当たります！

アンケート設置店舗

- ・A コープ大浦店
- ・A コープサザウィン店
- ・生協コープかせだ店
- ・万世ストア
- ・ピコ（タイハイ）

Web版は
こちらの
QRコード
から▶

